350 後下壁梗塞における Tc - 99 m ピロリン酸心筋シンチグラフィーの有用性の検討

南地克美,紀田 利,藤野基博,銕 寛之, 山田重信,吉田 浩(姫路循環器病センター)

急性期 Tc-99mピロリン酸 (PYP)心筋シンチを施 行した104例の後下壁梗塞にて右室梗塞(RVI)合併 の診断、罹患冠動脈の鑑別における有用性を検討した。 Parkev 分類 grade 2以上で discrete な集積を呈した陽性 例は全体で 68.3%であった。RVI 診断に関しては RCA 病変59例中右室 PYP 集積陽性例は35.6%であったが、血 行動態上 RVI 合併と診断されたにもかかわらず右室 PYP 集積陰性例が11例、18.6%に認められた。しかし左室へ の PYP 集積陽性の40例のみに限ると右室の PYP 集積陽性 率は52.5%と高率であった。一方PYP 集積陽性例での RCA病変とCX病変の鑑別は、(1)前面像での posterior septumへの集積、(2) anterolateralへの集積、及び(3) 左前 斜位での右室への集積の3点より検討すると、(1)及び (2)の RCA 病変診断の sensitivity はそれぞれ100%、51.2 %で specificity は85.7%、100%であった。また(3)の CX 病変診断の sensitivity は 90.5%、specificity は 92.5% で あった。本法は有意集積例のみに限れば RVI 合併、罹 患冠動脈診断に有用と考えられた。

351 TC-99mPYP心筋シンチグラフィの陽性描出像における摂取度、広がりの意義 - Tl-201心筋シンチグラフィとの比較 -

林田孝平,西村恒彦,植原敏勇,小林 満, 下永田剛(国循セン,放) 斉藤宗靖,住吉徹哉(同,内)

発症後3-6日以内に施行したTC-99mPYP心筋シ ンチグラフィ(PYPスキャン)にて陽性描出を認めた 急性心筋梗塞32例で摂取度、広がりの意義について 検討した。 PYPスキャンの摂取度 (Parkey分類)と 陽性像の大きさを慢性期に施行した Tl-201心筋シ ンチグラフィと比較した。摂取度 Parkey+2 (n= 10)で灌流欠損4例、低下2例、正常4例、Parkey +3 (n=12)で灌流欠損7例、低下4例、正常1例 Parkey+4(n=10)で灌流欠損9例、低下1例で あった。摂取度が低いほどTlスキャンでの心筋灌流 改善がみられた。心筋梗塞の広がりでは、23例は PYPスキャン〉Tlスキャン、9例はPYPスキャン》 Tlスキャンであった。この9例のうち5例は心内膜 下梗塞、2例は小梗塞であり、心筋の血流の改善が示 された。PYPスキャンとTlスキャンを併用すること により梗塞巣の広がりのみならず進展程度の判定に有 用であった。

352 99mTc-PYPシンチグラフィーによる 梗塞サイズと左室機能の検討 川村陽一(日本鋼管病院 内科) 昼間隆弘、松枝由美、増岡忠道(同 RI)

急性心筋梗塞の発作後平均 3.5 日に99mTc - PYP シンチグラフィーを施行し、4 方向のシンチグラムの 5 ち集積面積が最大となるものより梗塞サイズを算出した。一方、スライス巾8 mmにて施行した心CT像 よりCT上の梗塞サイズを算出した。前壁梗塞において、PYPシンチより求めた梗塞サイズは、CTより求めた梗塞サイズと良好な正の相関を示した。

また、心電図同期心ブールシンチグラフィーを施行して左室の収縮期指標(EF,1/3 ER mean)および拡張期指標(1/3 FF,1/3 FR max、FR max等)と、PYPシンチより求めた梗塞サイズとの関連につき検討した。PYPシンチより求めた梗塞サイズはEFと負の相関を示した。PYPによる梗塞サイズを大小2群に分けて拡張機能障害につき検討した。梗塞サイズの大なる群における1/3 FF,1/3 FR max、FR max は、梗塞サイズの小なる群の値に比して有意に低下がみられた。

353 T c-99m-P Y P 心筋 S P E C T による心筋梗塞量の測定 — T I - 201 欠損量、C P K 、L V F F との対比 —

望月輝一,外山貴士

(愛媛県立今治病院 放)

藤原康司 (同内) 村瀬研也、河村正、飯尾篤、浜本研 (愛媛大 放)

T c - 99m ピロリン酸心筋 S P E C T を用いて梗塞量を測定し、T I - 201 心筋 S P E C T における欠損量と対比した。 対象は初回発作のA M I 1 4 例 (男:11, 4) で、全例約1 カ月後にT I - 201 心筋 S P E C T 及び心プール法を施行した。S P E C T による% T I defect との相関は、① 70% c u t off l e v e I 体軸横断像で r = 0.758.②70% c u t off l e v e I 短軸像で r = 0.797.③ 対% P Y P u p t a k e で r = 0.953であった。

梗塞量とピークCPK、ΣСPK、LVEFとも比較検討した結果、PYP梗塞量とTI欠損量とはよく相関したが、CPKやLVEFとは良い相関は得られなかった。